

2009年3月期 決算説明会

2009年5月25日



証券コード: 9060

URL:<http://www.logitem.co.jp>



本日の内容

1. 2009年3月期決算の実績

2. 2010年3月期の見通し

3. 今後の取組み姿勢



1. 2009年3月期決算の実績

2. 2010年3月期の見通し

3. 今後の取組み姿勢



ロジテムグループの収益構造(09/3期)

事業別セグメント別

貨物自動車運送事業:

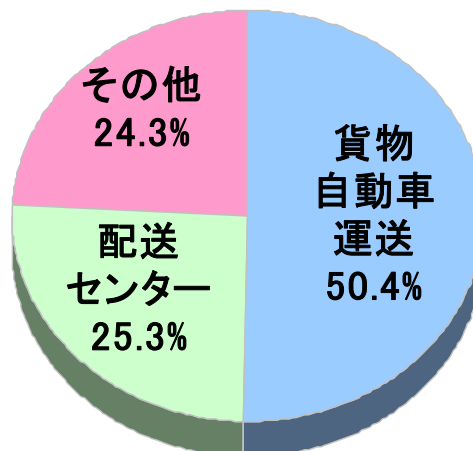
一般貨物自動車運送事業、貨物利用運送事業

配送センター事業:

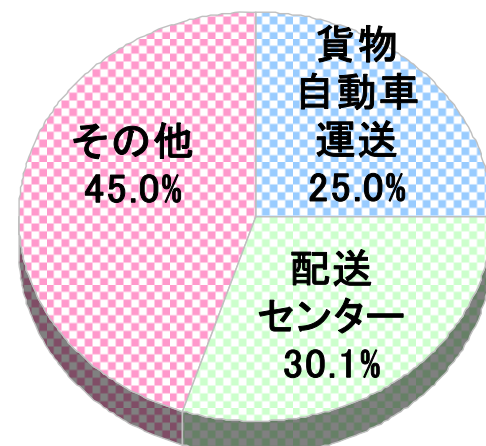
倉庫業、流通代行業

その他事業:

業務請負事業、人材派遣事業、不動産事業、
施工事業、旅客自動車運送事業



連結営業収益



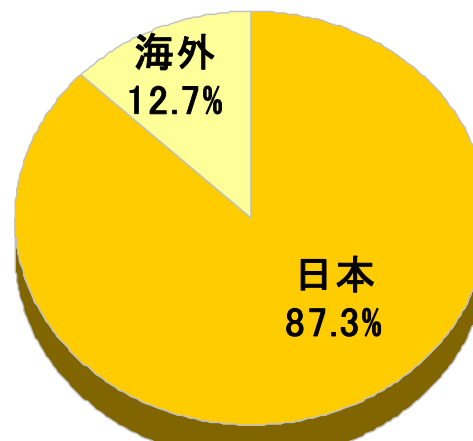
連結営業利益

所在地別セグメント

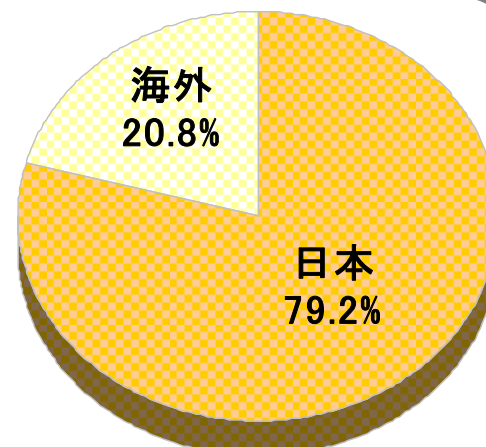
日本

海外:

ベトナム、中国、台湾、タイ、ラオス



連結営業収益



連結営業利益



2009年3月期決算のポイント(連結)

営業収益は前期比3.3%増、 内部消去後の営業利益は同23.7%減

営業収益はインテリア・エレクトロニクス関連の取扱量の減少も
新規得意先の獲得、既存得意先との取引深耕等により増収を確保
営業利益は第2四半期までの燃料費の高騰、ERPパッケージ(LSYS)の導入
による販売費および一般管理費の増加等により減益

国内における拠点の拡充とグループ会社の再編

日本ロジテム名古屋営業所における自社倉庫の竣工
岡山営業所(阪神ロジテム)・神戸事業所(ロジテムインターナショナル)の新設、
角谷運送の全株式の取得、サイバークローゼット事業の再編

ベトナム新体制と物流周辺事業の拡大

ベトナム統括子会社、ロジテムベトナムホールディングスの設立、
タイで工場内生産ラインを請負うC&Cバンコクへ出資



2009年3月期決算の概要

注) 利益率の増減は前期比ポイント

(単位: 百万円、%)

	09/3期			08/3期	09/3期
	実績	前期比(%)	計画比(%)	実績	計画 ※
連結営業収益	37,471	+3.3	+0.3	36,284	37,350
連結営業利益	651	△23.7	△13.2	854	750
(同利益率)	1.7	△0.7P	△0.3P	2.4	2.0
連結経常利益	459	△33.2	△8.1	688	500
(同利益率)	1.2	△0.7P	△0.1P	1.9	1.3
連結当期純利益	232	+58.6	+29.4	146	180
(同利益率)	0.6	+0.2P	+0.1P	0.4	0.5

※2009年1月30日の発表数値

・08/3期 海外TTMLレート(期中平均レート)

台湾: 3.59NT\$, 香港: 15.09HK\$, ベトナム・ラオス: 117.22US\$, 中国: 15.50RMB、タイ: 3.70BAHT

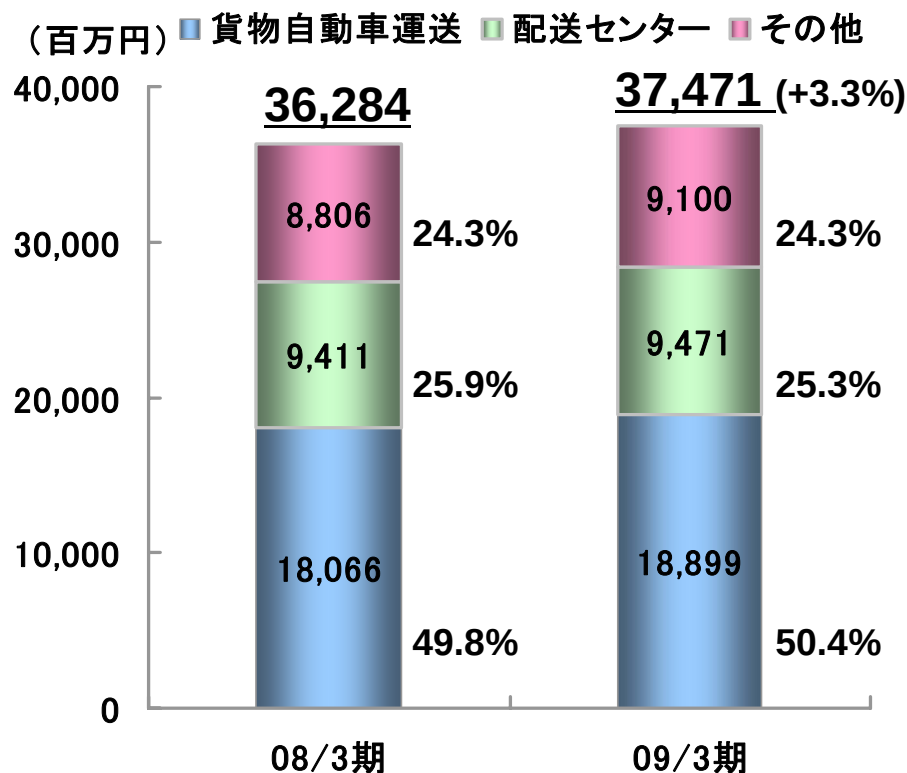
・09/3期 海外TTMLレート(期中平均レート)

台湾: 3.27NT\$, 香港: 13.21HK\$, ベトナム・ラオス: 102.78US\$, 中国: 14.84RMB、タイ: 3.12BAHT



セグメント別連結営業収益

貨物自動車運送事業とその他事業が営業収益を牽引



貨物自動車運送事業は、前期比4.6%増収

- 日本ロジテムの既存得意先の配送エリア拡大
- ロジテムベトナムNo.2の新規得意先の獲得、既存得意先との取引拡大
- M & Aにより全株式を取得した角谷運送が堅調に推移

配送センター事業は、前期比0.6%増収

- 日本ロジテムの新規配送センター業務の受注
- ロジテムベトナムNo.2の新規得意先の獲得、既存得意先との取引拡大
- 国内におけるインテリア・エレクトロニクス関連の取扱数量の減少

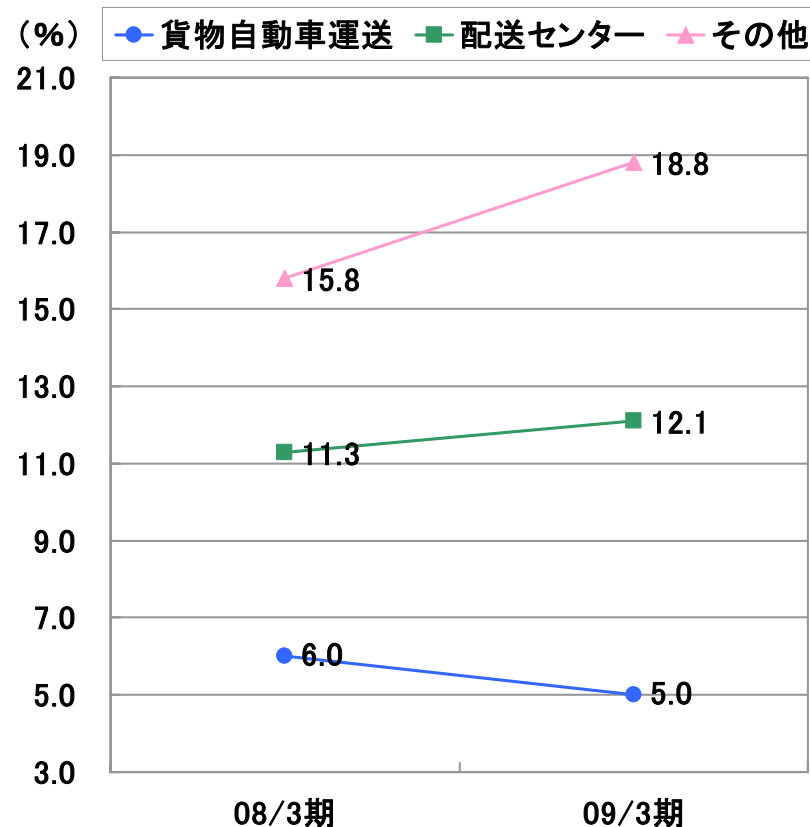
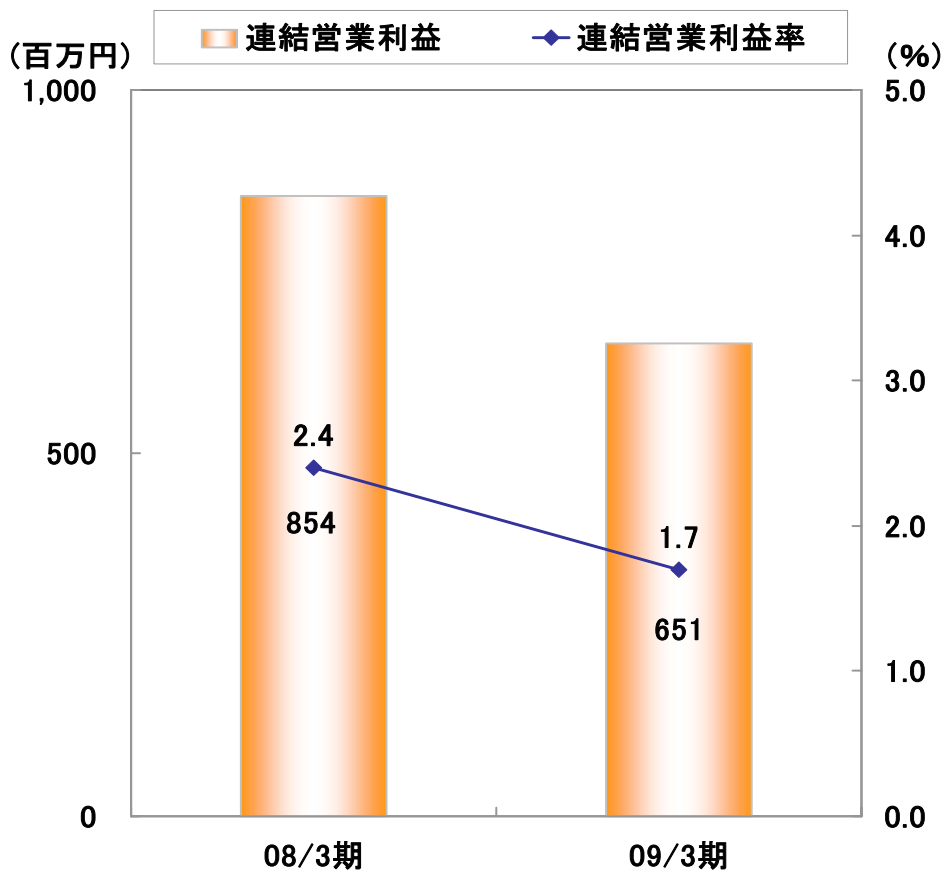
その他事業は、前期比3.3%増収

- ロジテムベトナムNo.1の旅客自動車運送事業の拡大
- ロジテムインターナショナルの通関事業の減少
- ロジテムエンジニアリングの施工事業の減少



連結営業利益とセグメント別状況

インテリア・エレクトロニクス関連の取扱量の減少、燃料費の高騰等により減益



注) セグメント別営業利益率は内部消去前

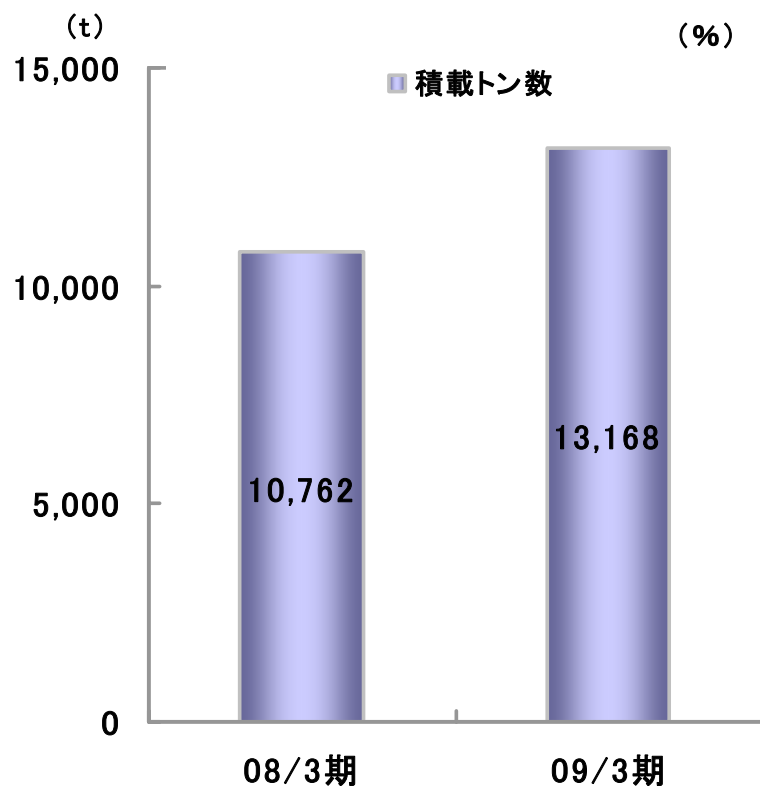


貨物自動車運送事業

	(百万円)	前期比(%)
営業収益	18,889	+4.6
営業利益	949	△12.1

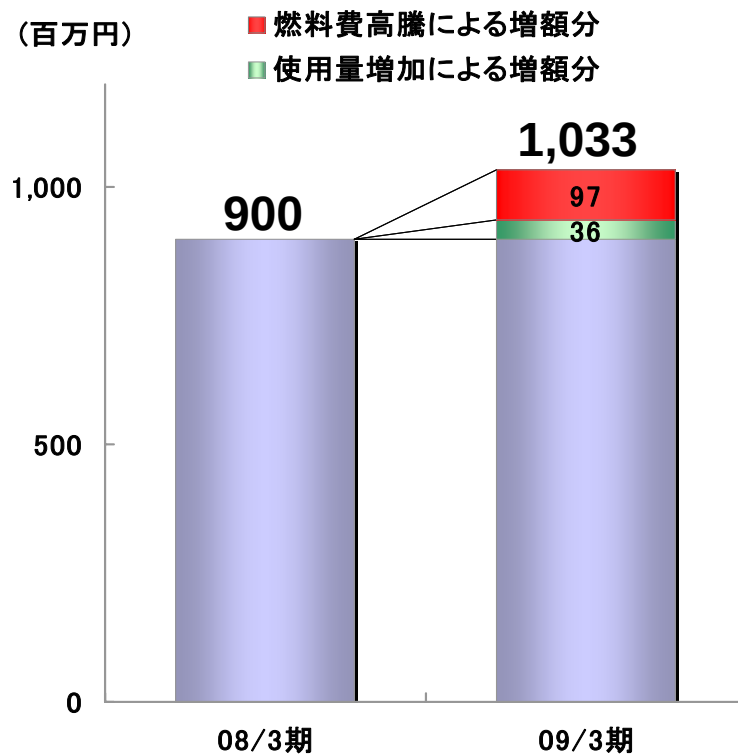
輸送能力が22.3%アップも燃料費高騰により減益

保有・管理台数(1日あたり) +208台の1,688台



輸送能力 注) 連結ベース、自車・協力車の合算数値

燃料費高騰により97百万円負担増



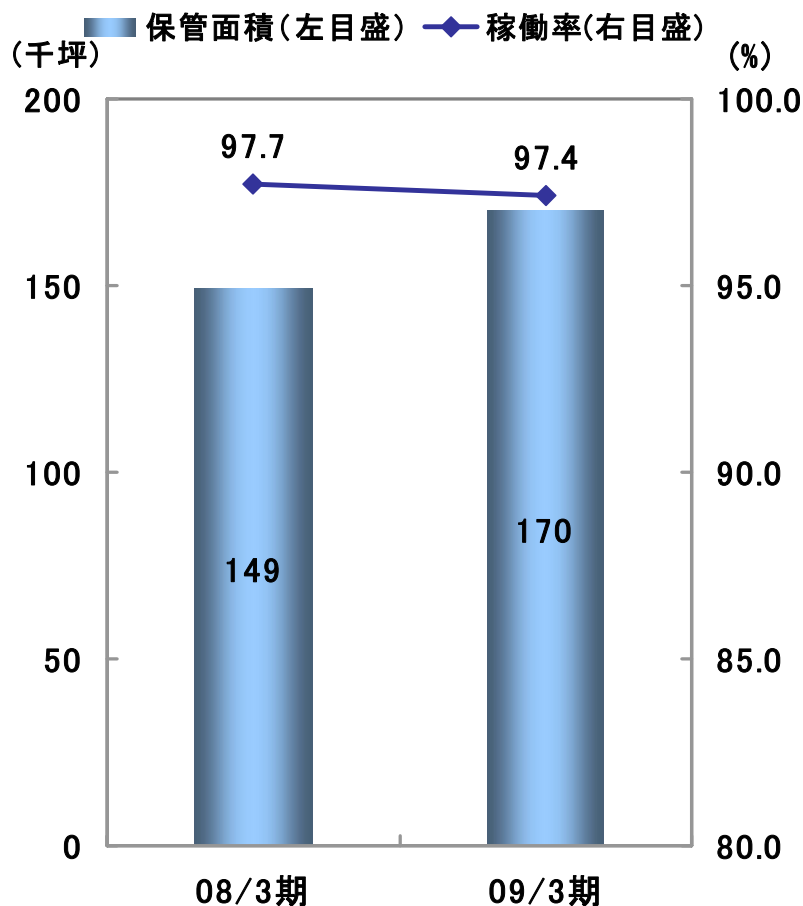
燃料費推移



配送センター事業

	(百万円)	前期比(%)
営業収益	9,471	+0.6
営業利益	1,144	+7.8

稼働率は若干低下したが、保管・作業効率向上により増益



	08/3	09/3
倉庫棟数	110	124

- ◆ 保管面積は、前期比14.4%増
17万坪に増加
- ◆ 稼働率は、日本ロジテムにおいて空スペースが発生し、0.3ポイント低下
- ◆ 新規配送センター業務の受注、保管作業効率の向上等により増収・増益

注) 賃借物件を含む



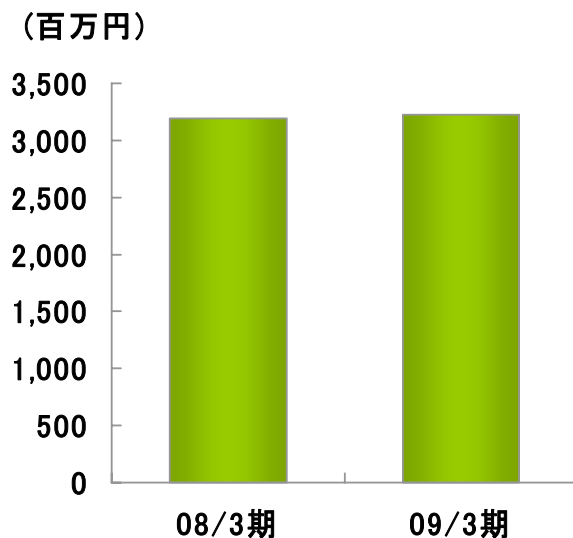
その他事業

	(百万円)	前期比(%)
営業収益	9,100	+3.3
営業利益	1,710	+23.2

旅客自動車運送事業の拡大により増益

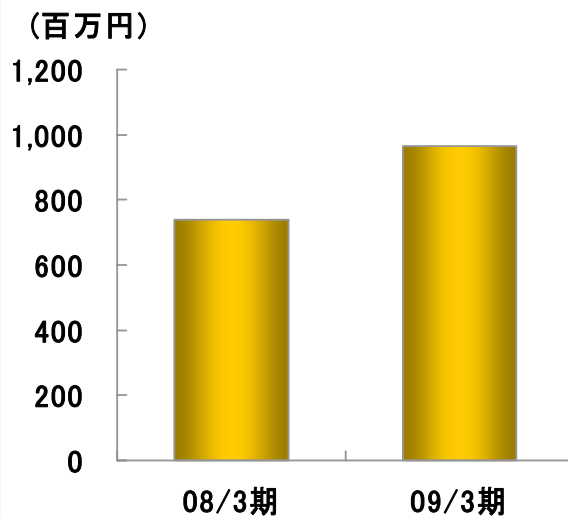
業務請負、人材派遣

営業収益3,222百万円
(+0.9%)
28百万円の増収



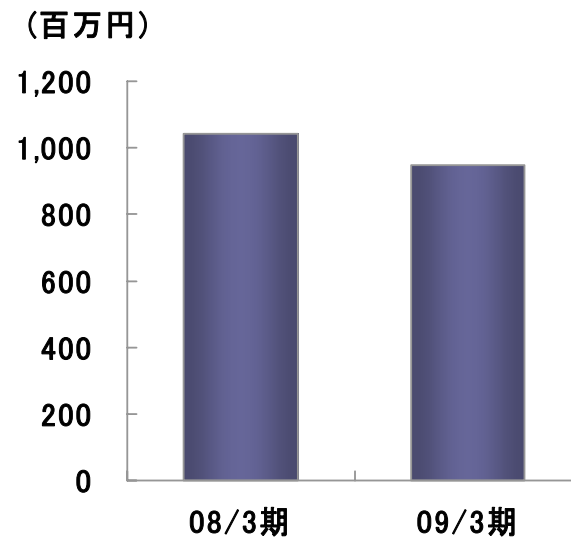
旅客自動車運送事業

営業収益964百万円
(+30.4%)
224百万円の増収



施工事業

営業収益949百万円
(△8.8%)
92百万円の減収

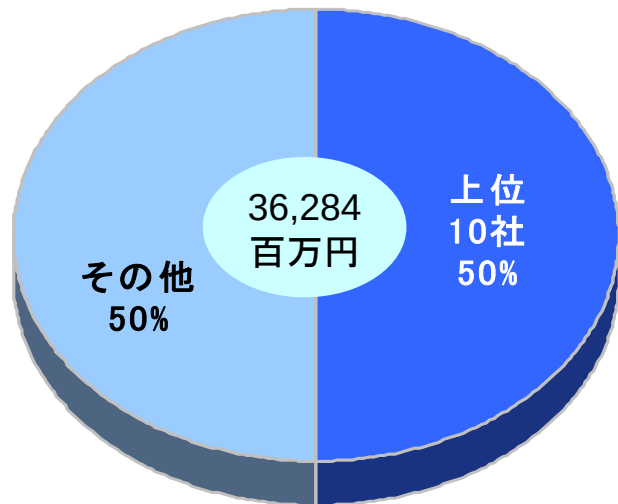




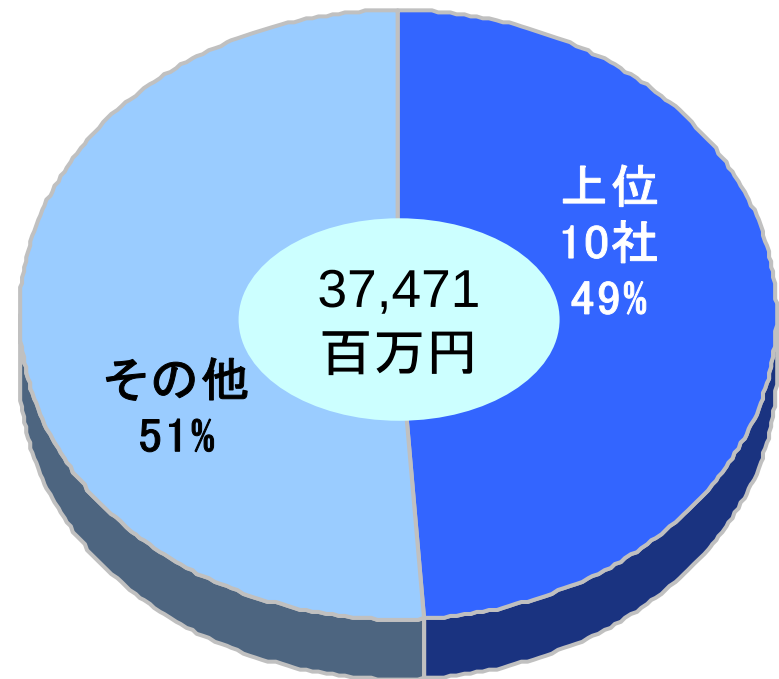
クライアントの状況

安定した顧客ポートフォリオ
上位10社が49%を占める

<2008年3月期>



<2009年3月期>



(売上高構成比率)

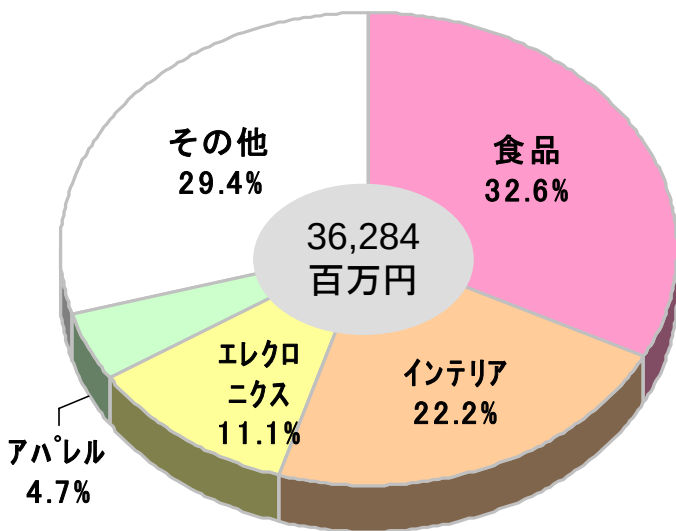
B2B物流をクライアントから一括請負受注



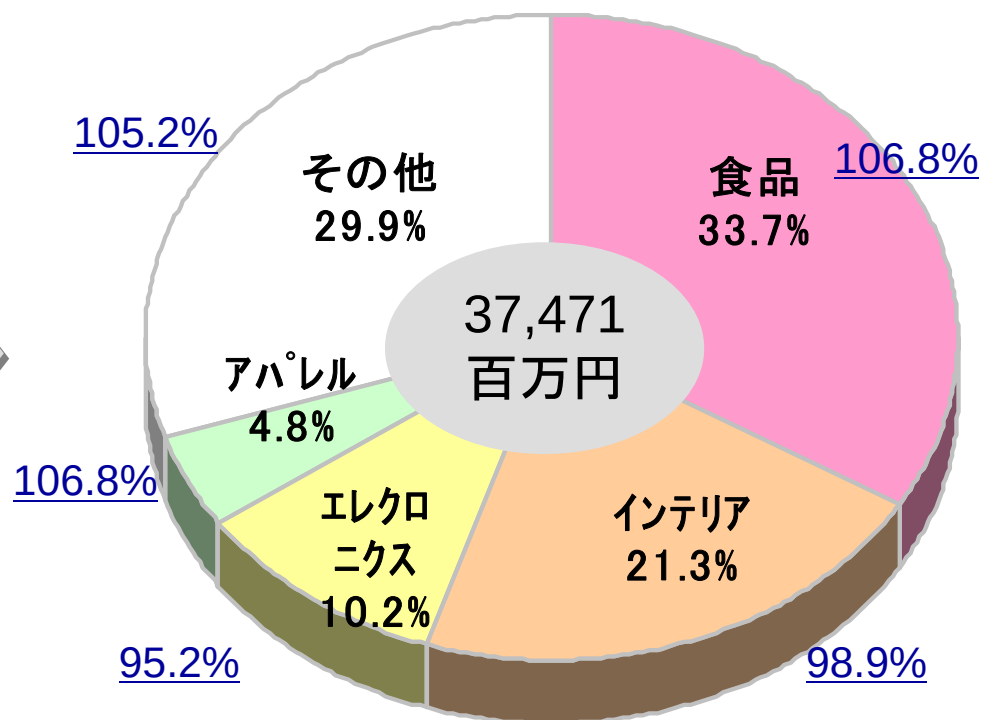
取扱い品目別情報

主力アイテムの食品・アパレル・その他の取扱高が続伸

<2008年3月期>



<2009年3月期>



※売上高構成比率と前期比(下線部)



連結貸借対照表

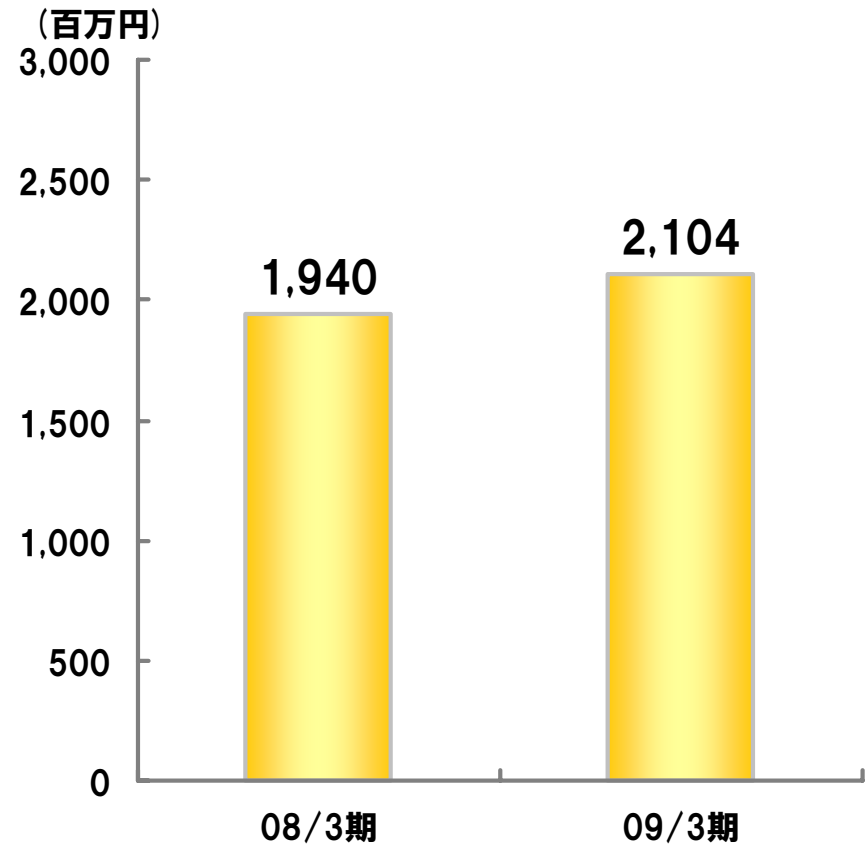
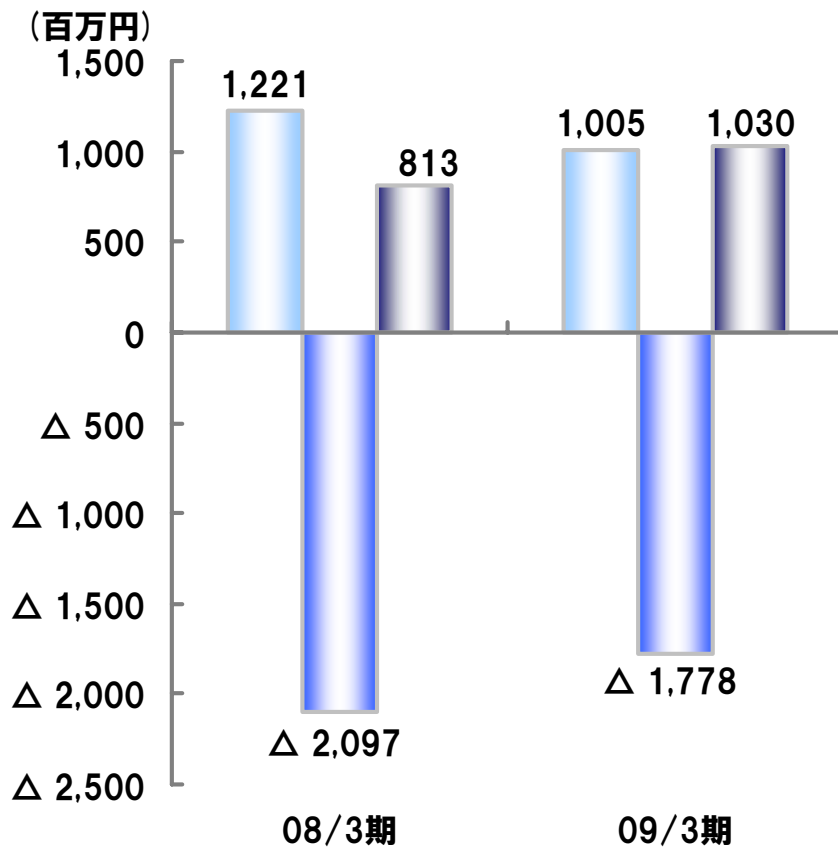
(単位:百万円)

科目	08/3期	09/3期	増減額
【資産の部】			
流動資産	8,267	8,322	55
固定資産	22,460	22,758	297
資産の部合計	30,727	31,081	353
【負債・純資産の部】			
流動負債	10,847	10,155	△691
固定負債	8,876	10,287	1,411
負債の部合計	19,723	20,443	719
純資産の部合計	11,003	10,637	△365
負債・純資産合計	30,727	31,081	353
(有利子負債)	12,826	13,929	1,102



キャッシュ・フロー

キャッシュ・フローの推移



営業CF 投資CF 財務CF 現金及び現金同等物期末残高



1. 2009年3月期決算の実績

2. 2010年3月期の見通し

3. 今後の取組み姿勢



2010年3月期の見通し

注) 利益率の増減は前期比ポイント
(単位: 百万円、%)

	10/3期(予)		09/3期	
	金額	前期比(%)	金額	前期比(%)
連結営業収益	37,500	+0.1	37,471	+3.3
連結営業利益	800	+22.8	651	△23.7
(同利益率)	2.1	+0.4P	1.7	△0.7P
連結経常利益	600	+30.5	459	△33.2
(同利益率)	1.6	+0.4P	1.2	△0.7P
連結当期純利益	240	+3.0	232	+58.6
(同利益率)	0.6	+0.0P	0.6	+0.2P
連結EPS	17.53	+3.0	17.02	+58.6
配当	8円		8円	

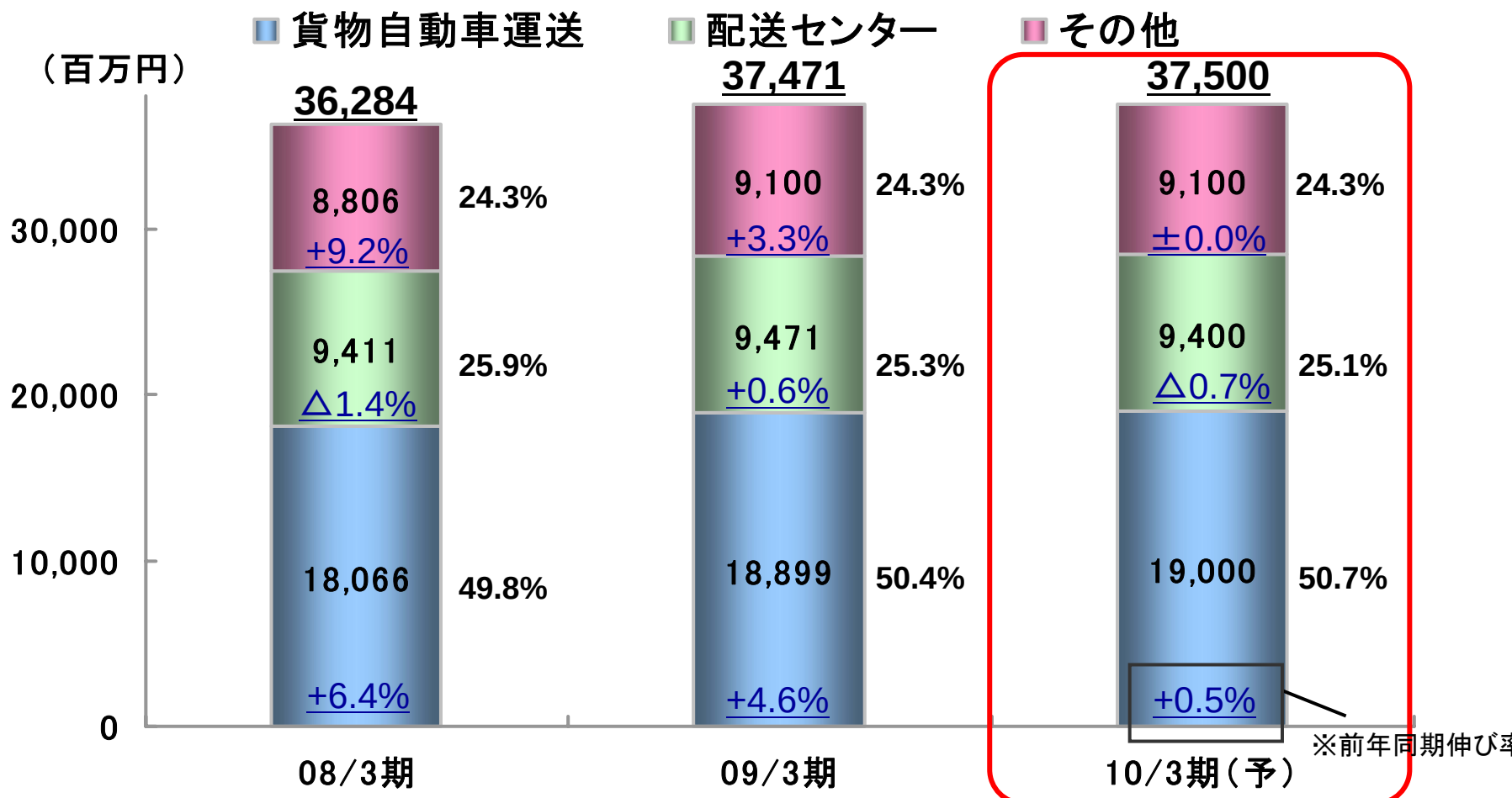
・10/3期前提 海外TTMLレート(期中平均レート)

台湾: 2.75NT\$, 香港: 12.20HK\$, ベトナム・ラオス: 95.00US\$, 中国: 14.00RMB、タイ: 2.60BAHT



セグメント別営業収益

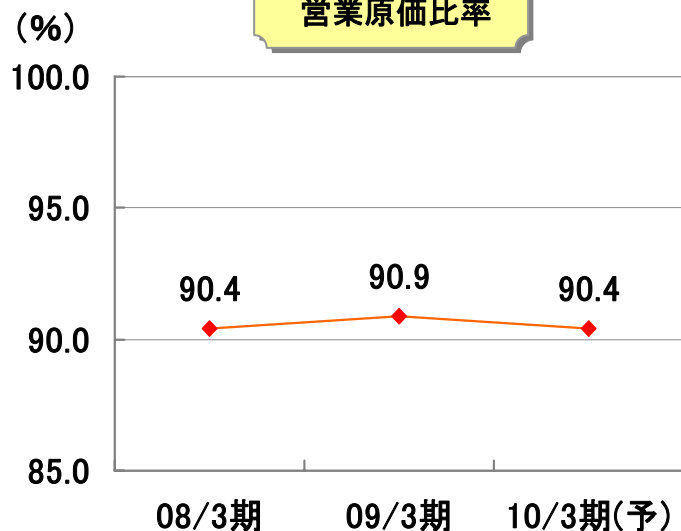
景気低迷のなかでも、前期並みを維持



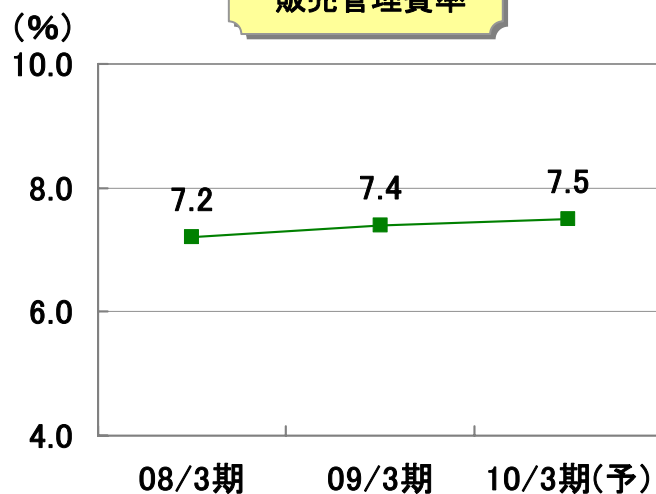


営業利益の見通し

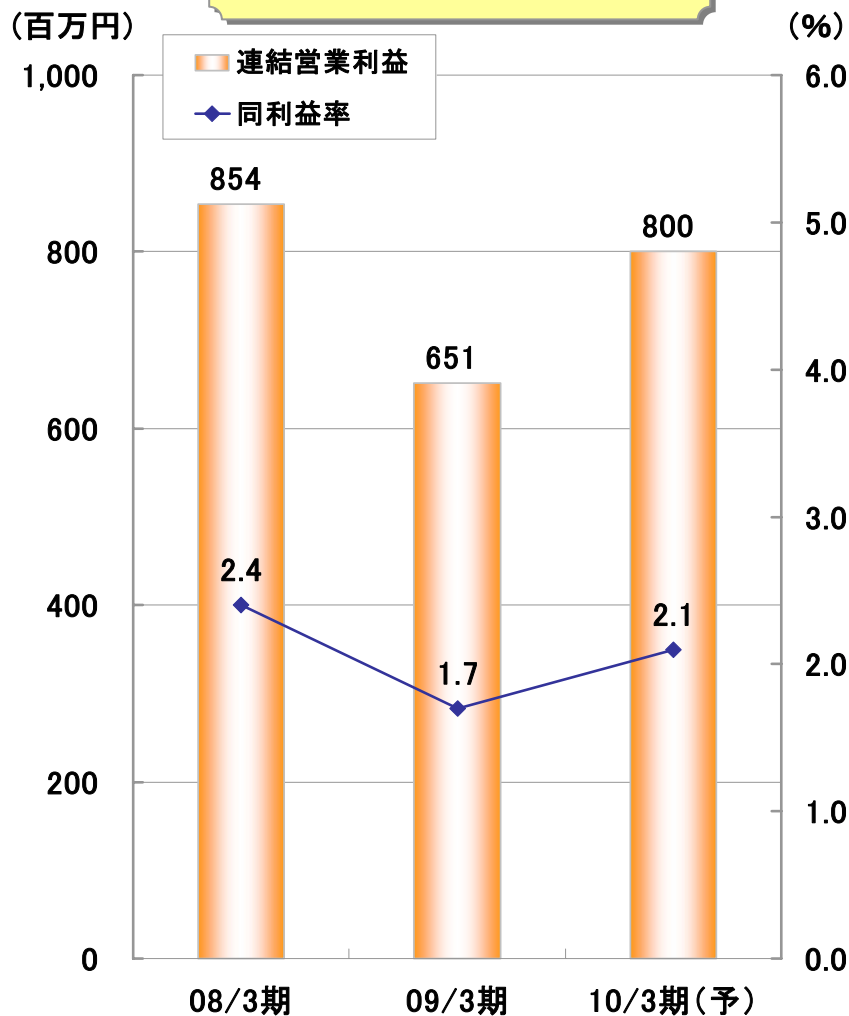
営業原価比率



販売管理費率



連結営業利益と同利益率





1. 2009年3月期決算の実績

2. 2010年3月期の見通し

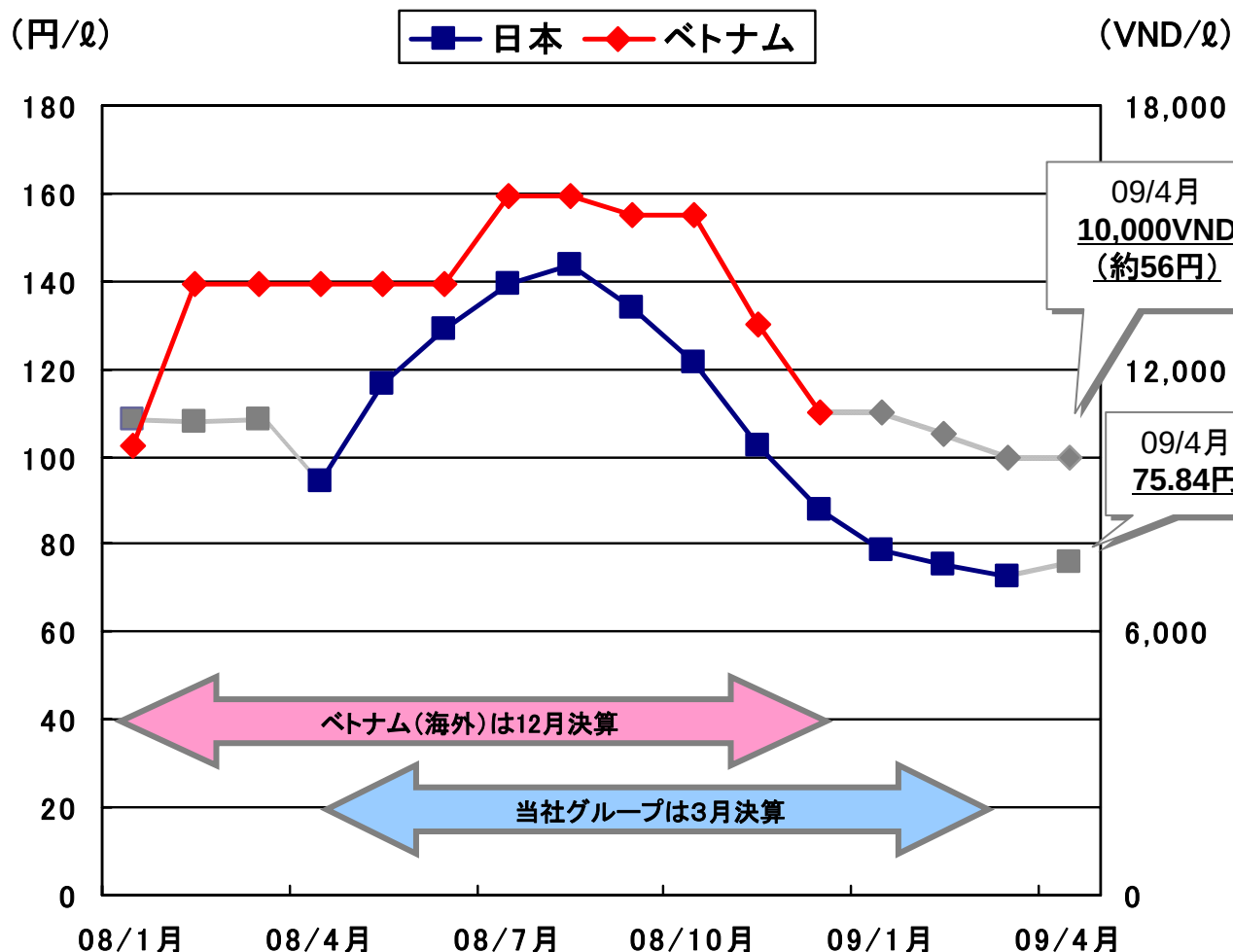
3. 今後の取組み姿勢



軽油価格の変動による業績の影響

グループ全体の軽油使用量の7割強をベトナムが占める

100VND(ベトナムドン)=0.56円換算



	2010年3月期 想定価格
ベトナム	13,000VND (約73円)
日本	90円

想定価格から
10%変動した場合

グループ全体で
約80百万円の影響
(うち海外で約56百万円)

※価格転嫁を実施しなかった場合



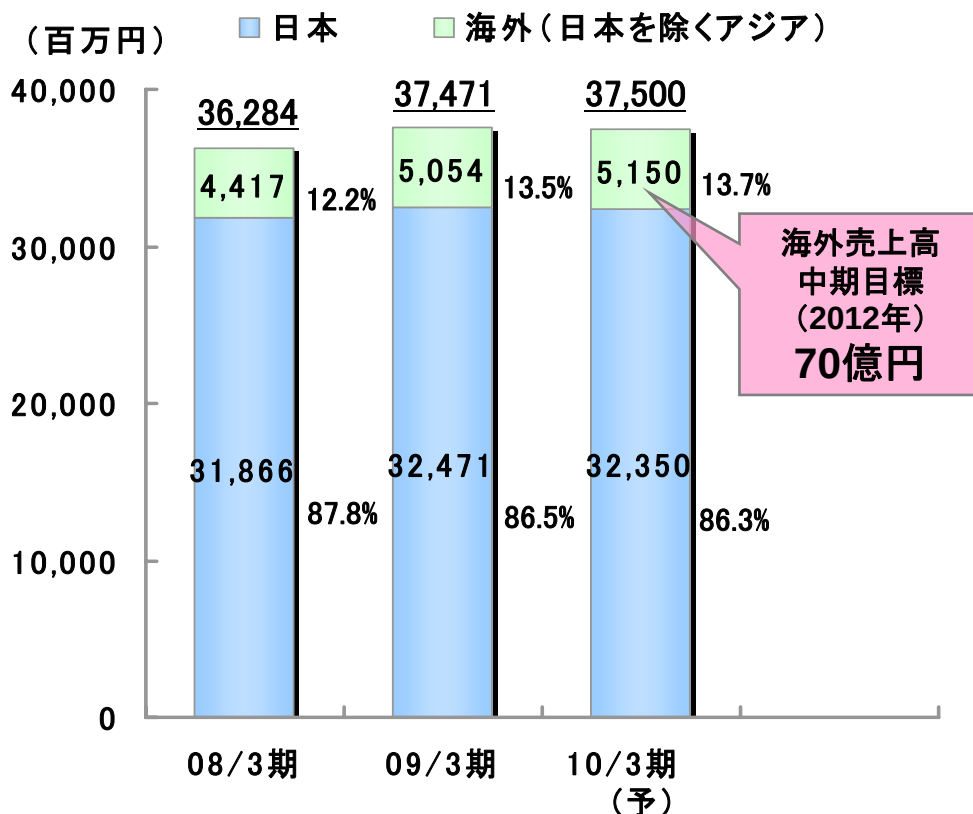
国内ビジネスの取り組み

	実施内容(09年3月期)	今後の取組み(10年3月期～)
提案営業の推進	(新規得意先の獲得) ✓ 市場が成長している通販会社から新規に業務を受注 ✓ スポーツ用品販売会社、総合医療機器メーカー、プラスチック総合加工メーカーの新規業務を獲得	✓ 営業開発部門の増強 ✓ グループ一体となった営業活動の強化
物流周辺事業の拡大	(バルク運送事業) ✓ 名古屋新倉庫が竣工 ✓ 角谷運送の全株式を取得し子会社化 ✓ 当社グループ初の中国地方での営業拠点の開設	✓ 日本ロジテム、阪神ロジテム、ロジテムトランスポート、角谷運送間の営業・管理・品質など情報を共有し、一層の業容拡大を図る
	(通関事業) ✓ 神戸事業所の開設、4大港での取扱が可能に	✓ 海外グループ会社との連携を強化 (国際関連会議の新設)
	(施工事業) ✓ 江東区辰巳から同区有明へ拡大・移転	✓ 建設工事分野をはじめとした事業領域の拡大
	(サイバークローゼット事業) ✓ ガードローブジャパンからロジテムエージェンシーへ事業譲渡、収益力の強化を図る	✓ ロジテムエージェンシーにおける個人向け顧客の営業チャネルを最大限に活用
事業領域の拡大	(川下物流へ進出) ✓ 福岡ロジテム(持分法適用)において本格始動	✓ 営業領域拡大を目指すため、ノウハウを蓄積
	(コンサルティング業務の推進) ✓ 日本ロジテムでコンサルティング業務の受注	✓ 一層の拡大を図るため「営業企画課」を新設



国際物流事業の更なる育成

海外売上高推移



換算為替レート(US\$)

117.22円	102.78円	95.00円
---------	---------	--------

2010年3月期の取組み

円高による影響も51.5億円を見込む

- ◆ ロジテムベトナムNo.1の旅客自動車運送事業の拡大
- ◆ ロジテムベトナムNo.2の新規得意先の獲得、既存得意先の取扱量の拡大
- ◆ ロジテムベトナムホールディングスの設立によるベトナム新体制による事業基盤の構築

※10/3期における為替変動による影響
(1US\$あたり1円の変動)

営業収益: 40百万円
利 益: 1.4百万円

(注)

1. 国又は地域は、地理的近接度により区分しております
2. 各区分の属する国又は地域の区分は次のとおりであります
・アジア・・・ベトナム、中国、台湾、タイ、ラオス
3. 海外売上高は、日本ロジテム及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります



ベトナムグループの経営管理体制の強化

ベトナムにおいて新体制による事業基盤を構築

2008年11月28日設立

ロジテムベトナムホールディングス



資本金: 12百万US\$(約1,180百万円)

資本構成:

日本ロジテム 68.6%

ロジテムインターナショナル 31.4%

【2010年3月期(予)】

売上高: 98百万円

経常利益: 51百万円

- ベトナムグループ企業の事業活動の統括管理
- ベトナムグループ企業に対するリース
- ローカル企業に対する投融資・コンサルタント 他

連携

ロジテムタイランド

ロジテムラオスGLKP

ロジテムベトナム(100%出資)



- 倉庫保管
- 国内貨物輸送

ロジテムベトナムNo.1(65%出資)



- 国内旅客自動車運送
- マンション賃貸

ロジテムベトナムNo.2(65%出資)



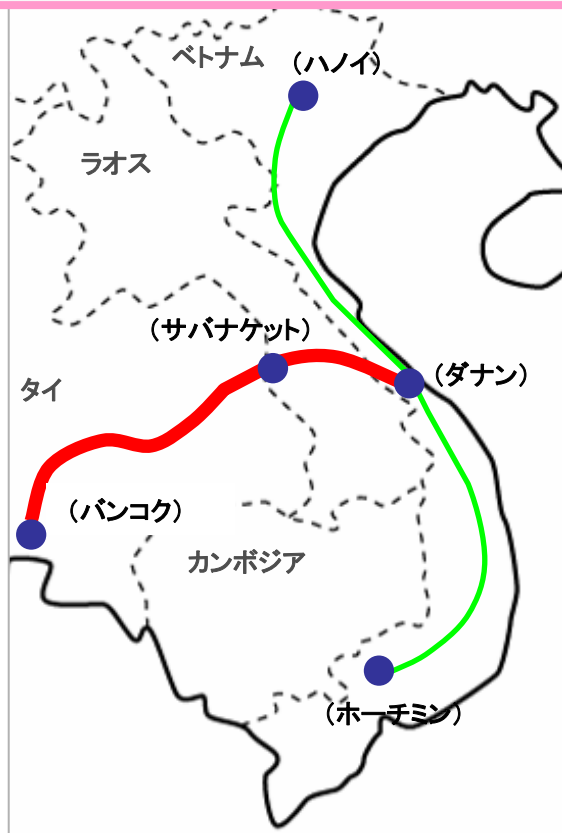
- 通関業
- 倉庫保管
- 国内貨物輸送



インドシナ半島における陸上輸送網の本格展開

東西回廊で定期トラック輸送を開始

アジアンハイウェイ東西回廊



輸送日数は海路輸送の4分の1へ短縮





“皇太子さま公式訪問”で車両を手配

2009年2月9日～15日
手配車両(乗用車・小型バス)は、延べ178台



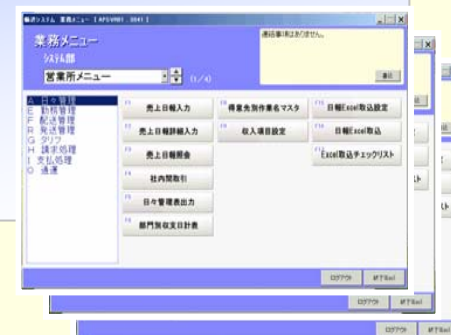


業務の効率化とコストダウンの推進

ローコストオペレーション活動の推進

ERPパッケージ“LSYS”の国内グループ会社への水平展開
による日々管理の徹底

- (1) サービスの品質・管理体制の強化
- (2) 営業活動の効率化



業務改善による品質向上

小集団活動「ACT256」の推進・強化による現場の活性化

5～10名のチームを組み、数値目標を定めて品質向上、効率化の推進

※Action (行動), Challenge (挑戦), Team (集団)

全日本物流改善事例大会への継続的な参加
業務改善部門を中心とした改善活動を組織的に推進

※2009年度発表内容についてはP32を参照





日本一信頼される企業グループを目指す

保管、荷役、流通加工、情報システム、3PLへと進化するロジスティクス業界





ご参考:トピックス I (国内)

		内 容
2009年 3月期	4月	● 内部統制システムの整備・確立を進めるため「内部統制室」を新設 ● 社団法人日本ロジスティクスシステム協会主催の全日本物流改善事例大会に3年連続参加 ● グループ社員全員参加による品質向上と業務の効率化を目的に小集団活動「ACT256」をスタート
	5月	● 福岡ロジテム(持分法適用会社)において川下物流(小売店の配送センター運営)を本格始動 ● ロジテムエンジニアリングにおいて施工事業の拡大および倉庫面積の増強を図るため、拠点を江東区辰巳から同区有明へ移転
	6月	● 当社グループの推進する「日々管理機能」を備えたLSYS(ERPパッケージ)を本稼稼動 ● 国土交通省に運賃サーチャージ制届出、荷主企業への理解をもらうための活動を進める
	7月	● 協力会社を含めた運送品質の向上を図ることを目的に協力社交歓会を開催(「ドライバーズマナーブック」を作成し、配布) ● 東京都トラック協会主催のドライバーコンテスト(大型部門)において当社社員が初めて3位に入賞
	9月	● 日本ロジテム鶴ヶ島営業所(埼玉県)において冷蔵倉庫(315坪)設備を増強(投資金額1億15百万円) ● 日本ロジテム名古屋営業所において中部地区の拠点拡充およびバルク運送事業の拡大を目的に名古屋市港区において新倉庫(1,954坪)を開設(投資金額約13億円) ● 障害者雇用を積極的に雇用している企業として社団法人東京都雇用開発協会より「障害者雇用優良事業所」として表彰を受ける
	10月	● ロジテムインターナショナルにおいて関西地区の通関業強化を図るため、神戸事業所を新設 ● 阪神ロジテムにおいて当社グループ初の中国地区の拠点となる岡山営業所を新設 ● 中部地区のバルク運送事業の拡大を図るため愛知県半田市の角谷運送をM&Aにより取得し、子会社化 ● 社団法人日本物流団体連合会認定の「第6回モーダルシフト取り組み優良事業者」に選出(3年連続4回目)
	3月	● グループ再編による営業力の強化を図るため、ガードローブジャパンの事業の全部をロジテムエージェンシーに譲渡し、ガードローブジャパンを解散決議(7月清算終了予定)
2010年 3月期	4月	● 3PL、提案型営業の推進を図るため業務部内に「営業企画課」を新設 ● 社団法人日本ロジスティクスシステム協会主催の全日本物流改善事例大会に4年連続参加



ご参考:トピックスII(海外)

		内 容
2009年 3月期	9月	● インドシナ半島における物流周辺事業の拡大を図るためC&C BANGKOK CO.,LTD.へ共同出資(持分法適用会社:出資比率41%)
	11月	● 新たな海外物流サービスの提案を目的に海外進出20周年記念式典を開催 ● ベトナムにおける経営戦略・資源配分に係わる対応の迅速化およびグループとして効率的な経営体制を強化するためLOGITEM VIETNAM HOLDING & INVESTMENT COMPANY LIMITEDを設立
	1月	● アジアンハイウェイ東西回廊を活用したタイ～ラオス～ベトナム間の定期運行を開始(週1回)
	2月	● ベトナム(ハノイ・ダナン・ホーチミン)において皇太子さま公式訪問で乗用車・バス178台を手配





ご参考：ロジテムグループ

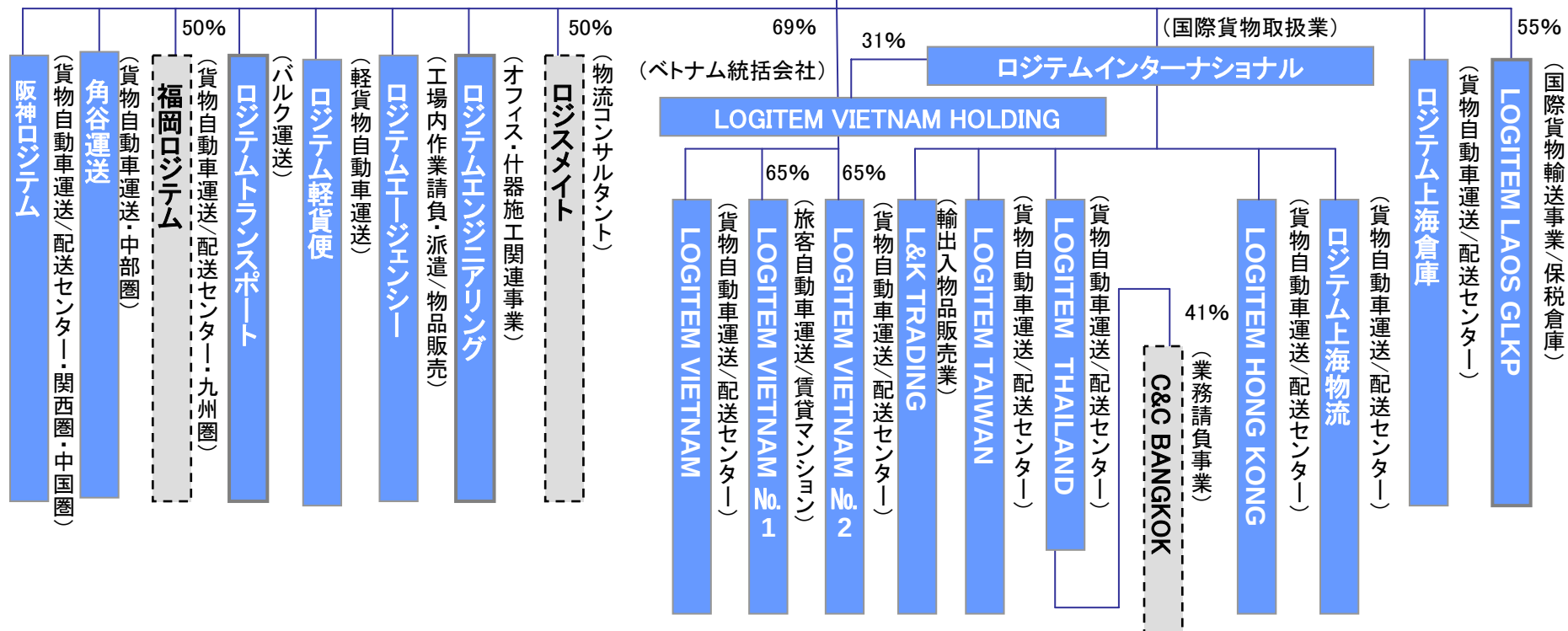
地域・事業体別に国内・海外に21社のグループ会社

連結子会社

持分法適用会社

日本ロジテム

(貨物自動車運送/配送センター・関東圏・中部圏)



地域別

運送品目別

サービス別 (運送以外)

ベトナム

台湾

タイ

香港

中国

ラオス

国内

海外



【ご参考】

改善事例：手作り専用台車、治具の開発

「全日本物流改善事例大会 2009」で発表（4年連続）



「ピッキング作業の効率化」をテーマに発表

- ゴルフ関連の知識不足
- ピッキング作業に無駄が多い
- 台車が作業に適していない
- シール貼り作業が複雑

	改善前	改善後
ピッキング時間	180秒/本	80秒/本
値付け・シール貼付時間	33秒/本	16秒/本

100万円/年のコスト削減（推定）

※「全日本物流改善事例大会」：
社団法人日本ロジスティクスシステム協会主催。
物流ノウハウを共有化し、物流業界の発展を目指して年1回実施されている。



【ご参考】環境保全活動の取り組み

「人と環境にやさしい物流」の推進

「モーダルシフト取組み優良事業者」に選出

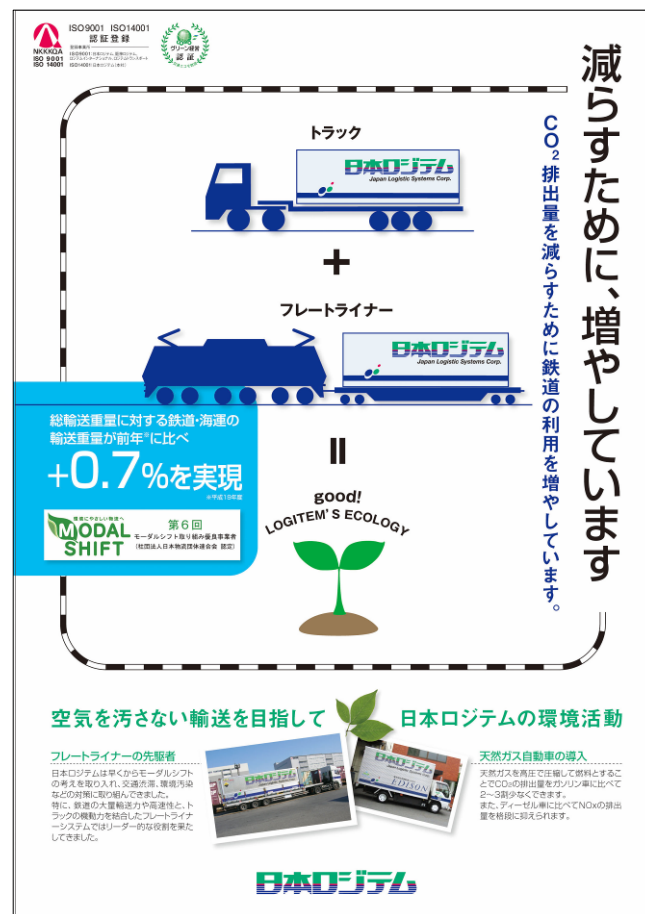
(社団法人日本物流団体連合会認定)

- － 長距離トラック輸送から鉄道コンテナ輸送
(31ftコンテナ等)への積極的な提案

「グリーン経営認証」の取得

(国土交通省推奨)

- － 全営業所で廃棄物の削減、電力・紙の使用量減少を推進
- － ISO14001認証は、本社で取得済み





- 本資料に記載されております当社の将来の業績に関わる見通しにつきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社が独自に予測したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。従いまして、見通しの達成を保証するものではありません。
- 当社の内部要因や、当社を取り巻く事業環境の変化等の外部要因が直接または間接的に当社の業績に影響を与え、本資料に記載した見通しが変わる可能性があることをご承知おき願います。